

# わが国の看護基礎教育課程における基礎看護技術演習 に関する研究の動向 1991～2002年に発表された文献の分析

穴沢小百合 松山友子

国立看護大学校；〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1  
anazawas@adm.ncn.ac.jp

## Trend in Studies on Fundamental Nursing Skill Training Included in the Basic Course on Nursing Education in Japan ; Analysis of the Literature Published between 1991 and 2002

Sayuri Anazawa\* Tomoko Matsuyama

\*National College of Nursing, Japan ; 1-2-1, Umezono, Kiyose-shi, Tokyo, 〒204-8575, Japan

**【Abstract】** Purpose : To discover the direction of future of fundamental nursing skill training in basic nursing education by examining the current trends. Research trends on fundamental nursing skills training in the basic course of nursing education is elucidated to obtain a hint about the direction of future studies. Research Method : Original articles on fundamental nursing skill training published between 1991-2002, were searched for by using Japan Medical Abstracts Society ; and by examining each article, the relevant literature to be analyzed was selected. The contents of these articles were examined thoroughly to select those that were pertinent. They were then entered as data ; and descriptive statistics were tabulated on parameters such as the year of publication, nursing skill, type of research, design, subjects of the study, and problems related to research ethics. After examining each article was carefully read and the content was summarized, entered in codes, and categorized according to the similarity of content (expressed in codes). Results : A total of 77 articles were collected, of which about 50% were quantitative or evaluation studies. The research contents were grouped into the following 6 categories : I. Teaching strategy and the result of using teaching aids in education of nursing skill ; II. The state of students learning skills in nursing skill training and the factors that affect the process ; III. Psychological status of the students in the process of learning nursing skill and the factors that affect this status ; IV. Actual status of empirical learning methods in education on nursing skill ; V. Actual status of evaluation of education in nursing skill and VI. Actual status of students' activities in acquiring nursing skill. Discussion : In categories III and IV, the state of experiencing the patients' roles and the psychological stress of students caused by such experiences were indicated. However, students' handling of this stress through empirical learning and the relationship between such stress and achieving the projected learning goal were not followed up, indicating a need for further research in this area. For category VI, the research contents indicated progress in the studies on training in fundamental nursing skill.

**【Keywords】** 看護基礎教育課程 basic nursing education course, 基礎看護技術 fundamental nursing skill, 演習 training, 体験学習 empirical learning, 看護技術教育 education in nursing skill

### 1. 緒言

看護基礎教育課程においては、医療の高度化、社会状況の変化に対応しうる質の高い看護職者養成の必要から1989年、1996年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則(以下、指定規則)が改正されている。しかし、指定規則改正による教育課程の実習時間数の減少等に伴い、学生の技術力低下が懸念され、近年では看護師の就職時の臨床実践能力が不足している<sup>1)</sup>ことが指摘されている。さらに、臨地実習では看護業務の複雑化、患者の重症化を背景とし

て医療における安全確保、患者の権利擁護の視点から看護学生(以下、学生)が経験できる看護技術に限られる傾向が見受けられている。このような状況の中、厚生労働省は「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会」を発足させ、2003年3月には同検討会による報告書が提出された。この報告書では看護基礎教育課程の技術教育の中でも、臨地実習に焦点が当てられ、臨地実習において学生が行なう基本的な看護技術の考え方、身体侵襲を伴う看護技術の実習指導のあり方等が示されている<sup>2)</sup>。これは、技術教育のあり方が示されたと同時に、看護師学校養成所において臨地実習で患者の権利を保障しつつ、学生が安

全・安楽な技術を習得するために、指導体制の充実等を含めた技術教育の見直しを求めたものと捉えられる。

臨地実習における学生の看護技術の習得は患者に安全・安楽な技術を提供することと一体である。そのためには、学内における看護技術の十分な学習が必須であり、臨地実習での実践を前提とした看護技術演習がますます重要になると考えられる。したがって、看護技術教育に携わり発展させていくためには、現状における看護技術教育に関する研究の動向を明らかにし、今後の研究遂行上の課題を検討する必要がある。そこで、わが国の看護基礎教育課程における看護技術教育に関する研究の中でも基礎看護学領域において、看護の共通・基本技術の習得をめざす基礎看護技術演習に関する研究の分析を試みた。

## II. 研究目的

わが国の看護基礎教育課程における基礎看護技術演習に関する研究の動向を明らかにし、今後の研究遂行上の示唆を得る。

## III. 用語の定義

本研究は基礎看護技術演習に関する研究に焦点をあてた。そこで、基礎看護技術、演習および基礎看護技術演習に関する研究について以下のように規定した。

**基礎看護技術：**基礎看護技術とは、基礎看護学領域において教授・学習される技術であり、かつ対象の理解と看護実践の基礎となる共通・基本技術<sup>3)</sup>である。

**演習：**演習とは、教師の指導のもとに実地に研究活動を行なう授業<sup>4)</sup>とされ、基礎看護技術の演習は看護実践の状況を想定し、教師の指導のもとに看護技術の練習を探索的に行なう授業<sup>5)</sup>と捉えられている。また、基礎看護技術における演習は看護学生が看護師・患者役割の体験を通して看護技術を習得することも特徴の1つである。そこで、本研究における演習は看護実践の状況を想定した看護師役・患者役の役割体験を通して、学生が看護技術を習得する授業形態の1つとする。

**基礎看護技術演習に関する研究：**前述の基礎看護技術、演習に関する規定を踏まえ、本研究における基礎看護技術演習に関する研究とは、基礎看護学領域において、看護実践を想定した看護師・患者役割の体験を通して看護の共通・基本技術を習得する基礎看護技術演習に焦点をあてた研究とする。

## IV. 研究方法

### 1. 対象文献の抽出

看護基礎教育課程における基礎看護学領域は、1989年に改正された指定規則において、従来の「看護学総論」が「基礎看護学」となり、規定されている<sup>6)</sup>。そこで、対象文献は1989年に改正された指定規則の実践を踏まえた、1991～2002年の12年間の基礎看護技術演習に関する原著論文とした。

対象文献の抽出は、二次資料を医学中央雑誌とし、演習、体験学習、学内実習、校内実習、患者シミュレーション、教育方法、看護技術、看護教育研究、看護学生、看護教育をキーワードに1991～2002年の原著論文を検索し、文献を抽出した。抽出した文献の中には基礎看護学領域以外の演習に関する文献や実践報告等が含まれており、これらを研究対象から除外した。さらに、内容の精読を通して基礎看護技術演習に関する論文を選定し、対象文献を入手した。

### 2. 分析方法

分析フォームは先行研究<sup>7,8)</sup>を参考に作成し、それに基づいて対象文献をデータ化した。

データのうち、論文発表年、文献の種類、研究者(第一著者)の所属機関、看護技術項目、研究の種類、研究デザイン、研究対象者、データの種類、データ分析方法、研究倫理上の問題については統計ソフト Excel 2000 を用い、記述統計値を算出した。また、研究内容については研究論文を精読し、研究内容を要約し、それらを表現する研究内容コードを作成した。次に研究内容コードの意味内容の類似性に基づいて分類しカテゴリ化した。研究内容の要約、コード化、分類の信用性は研究者間の検討を通して確保した。

## V. 結果

1991～2002年の12年間において、前述のキーワードにより抽出された論文は594件であった。このうち基礎看護技術演習に関する原著論文である77件を分析対象とした。

### 1. 対象文献数の年次推移(図1)

論文発表年については、12年間の対象文献数の年次推移を分析した。1991～1996年の6年間の文献数は19件(24.6%)であり、この間の各年の文献数は1～7件であった。その後、1997年の0件を最低として、増加傾向を示し1997～2002年の6年間の文献数は58件(75.4%)、1998年以降の各年の文献数は5～16件であった。

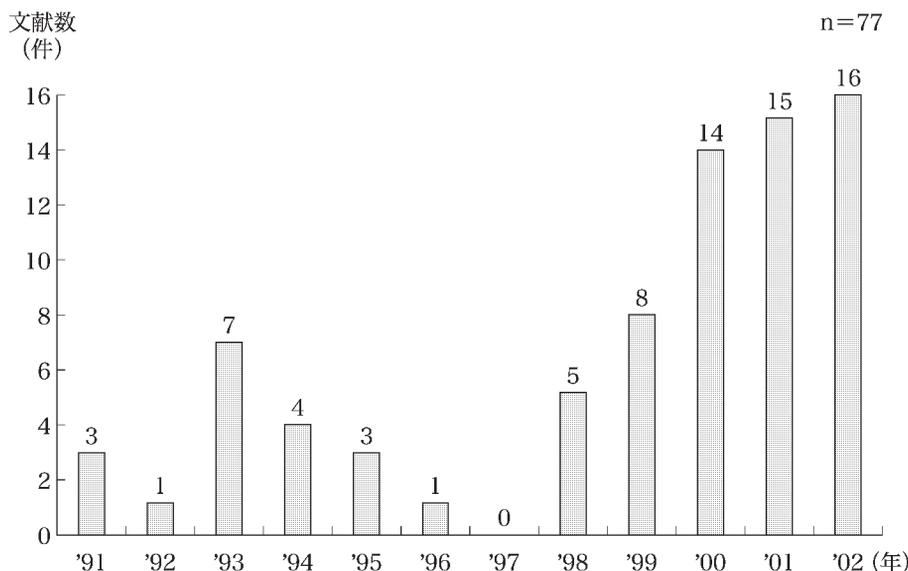


図1 対象文献数の年次推移

表1 看護技術項目の分類

n=77

看護技術項目	件	(%)	具体的看護技術名(件数)
環境調整技術	5	(6.5)	ベッドメイキング(3), リネン交換(2)
食事援助技術	2	(2.6)	食事介助(2)
排泄援助技術	7	(9.1)	床上排泄(3), 排泄介助(2), おむつの装着(1), 浣腸(1)
活動・休息援助技術	6	(7.8)	体位変換・移乗(4), ボディメカニクス(2)
清潔・衣生活援助技術	8	(10.4)	清拭(4), 足浴(2), 口腔ケア(1), 清拭・足浴・洗髪(1)
与薬の技術	2	(2.6)	注射(2)
症状・生態機能管理技術	14	(18.2)	静脈血採血(9), フィジカルアセスメント(3), バイタルサイン測定(2)
感染予防の技術	6	(7.8)	無菌操作(4), 手指の消毒(2)
安楽確保の技術	1	(1.3)	罨法(1)
援助的人間関係形成の方法	5	(6.5)	コミュニケーション(4), 面接(1)
その他	21	(27.2)	基礎看護技術全般(14), 複数の看護技術(6), 模擬患者への援助を経験した初回の技術(1)

## 2. 文献の種類

対象文献が掲載されていた文献の種類はすべて看護系専門雑誌であった。その内訳は大学・短期大学・専門学校の紀要が53件(68.8%)と最も多く6割以上を占めた。次いで、看護系学会誌が10件(13.0%), 看護系の商業雑誌等を含むその他が14件(18.2%)であった。

## 3. 研究者の所属機関

研究者(第一著者)の所属機関は短期大学が40名(51.9%)と最も多く、5割以上を占めた。次いで、大学22名(28.6%), 専門学校9名(11.7%), 大学院1名(1.3%), 医療施設1名(1.3%)と続き、各種学校等を含むその他が4名(5.2%)であった。

## 4. 看護技術項目の分類(表1)

対象文献における演習の看護技術項目の分類については「看護学教育のあり方に関する検討会報告」で示された「『看

護基本技術』の学習項目, 「『看護ケア基盤形成の方法』の学習項目」<sup>9)</sup>および基礎看護技術に関するテキスト<sup>10)</sup>を参考にした。

その結果、症状・生態機能管理技術14件(18.2%)が最も多く、その中でも静脈血採血の技術が9件と全体の11.6%を占めた。次いで清潔・衣生活援助技術8件(10.4%), 排泄援助技術7件(9.1%), 活動・休息援助技術6件(7.8%), 感染予防の技術6件(7.8%), 環境調整技術5件(6.5%), 援助的人間関係形成の方法5件(6.5%), 食事援助技術2件(2.6%), 与薬の技術2件(2.6%), 安楽確保の技術1件(1.3%)と続いた。そして、基礎看護技術全般を取り扱った研究14件, 複数の看護技術を取り扱った研究6件, 学生が模擬患者への援助を経験した初回の技術を取り扱った研究1件からなるその他が21件(27.2%)であった。

表 2 データの種類(重複集計)

n=96

データの種類	件	(%)
質問紙	54	(55.1)
学習者のレポート, 演習において実施した課題	16	(16.3)
看護技術評価表・チェックリスト	9	(9.2)
観察データ	8	(8.2)
面接データ	2	(2.0)
実技試験結果	2	(2.0)
筆記試験結果	1	(1.0)
文献	1	(1.0)
その他	3	(3.1)
合計	96	(100.0)

## 5. 対象文献の研究手法

### 1) 研究の種類およびデザイン

研究の種類は, 量的研究が 37 件(48.1%), 質的研究 18 件(23.3%), 量・質併用研究 22 件(28.6%)であった。

研究デザインは, あるプログラム, 実践, 手順, 方針等の遂行の成果を明らかにしようとする評価研究<sup>11)</sup>が 38 件(49.4%), ある集団の特性・意見・意思等を調べる目的で行なわれる調査研究<sup>12)</sup>が 39 件(50.6%)であった。

### 2) 研究対象者

研究対象者は文献研究 1 件を除外した 76 件を分析した。その結果, 研究対象者は学生が 70 件(92.1%)と最も多く 9 割以上を占めた。次いで学生と看護学教員(以下, 教員)が 4 件(5.3%), 看護師として就業中の卒業生が 2 件(2.6%)であった。

### 3) データの種類(表 2)

データの種類は重複集計とし, 種類の総数は 96 件であった。その内訳は質問紙が 54 件(55.1%)と最も多く 5 割以上を占め, 次いで学習者のレポート・演習において実施した課題 16 件(16.3%), 看護技術評価表・チェックリスト 9 件(9.2%), 観察データ 8 件(8.2%), 面接データ 2 件(2.0%), 学生の実技試験結果 2 件(2.0%), 学生の筆記試験結果 1 件(1.0%), 文献 1 件(1.0%)と続き, 学生の看護技術経験録等を含むその他が 3 件(3.1%)であった。

学習者のレポート, 演習において実施した課題, 看護技術評価表および実技試験結果, 筆記試験結果は学習者の学習成果であり, これらをデータとしていた研究は 28 件(29.2%)であった。

### 4) データ分析方法

データ分析方法は量的分析方法と質的分析方法に分けて集計した。量・質併用研究については質的分析方法と量的分析方法の部分抽出し, それぞれ量的分析方法と質的分析方法の件数に加えた。

量的分析方法は合計 59 件であった。これらのうち,

数・比率を求め検定法を実施していない研究が 35 件(59.3%), 検定法を用いている研究が 24 件(40.7%)であった。

質的分析方法は合計 40 件であった。このうち, 内容分析が 3 件(7.5%), KJ 法 3 件(7.5%), 看護概念創出法 1 件(2.5%), 既存の分析方法を用いていない方法であるその他が 24 件(60%)であった。その他の内訳は, 分析手順を具体的に提示した研究が 8 件(20.0%)であり, 共通性に着目して分類したことが記述されていた研究が 16 件(40.0%)であった。残る 9 件(22.5%)は分析方法の記述がなく不明であった。

### 5) 研究倫理上の問題

研究倫理上の問題の可能性の有無について, 問題なしと判断された文献は 14 件(18.2%)であった。これらの文献では対象者の匿名性を保護し, 研究参加の有無や回答内容が学科成績に関与しないことを説明していた。さらに, 対象者への説明方法および承諾の有無, 質問紙の配布・回収方法・回収率等, 研究倫理上の問題なしと判断できる記述があった。

一方, 研究倫理上の問題の可能性ありと判断された文献は 44 件(57.1%)であった。これらの具体的内容は重複集計とし合計 48 件であった。この 48 件の内訳は, 対象者の匿名性を保証していない 43 件, 研究のデータ収集に対し強制力が働いた可能性あり 4 件, データ収集に対し対象者に過度な負担が生じた可能性あり 1 件であった。最も多かった対象者の匿名性を保証していない文献は, 対象文献全体の 55.8%を占めた。

例えば, 対象者の匿名性を保証していないと判断された文献では論文中に「本校学生」, 「本校 1 年生」等対象者を特定できる情報が記述されていた。中には対象者の学生が所属する学校名が記述されている文献や「本校学生」と対象者を特定した上で看護技術の実技試験結果をデータとして用いている文献も存在した。また, 研究のデータ収集に対し強制力が働いた可能性ありと判断された文献では「回収率 100%」であったことが記述されている文献や, 研究参加の承諾を得ないまま学習者のレポートを授業の一環として回収し, 一旦返却せずに事後承諾を得て研究データとして使用したことが記述されている文献も存在した。さらに, データ収集に際し対象者に過度な負担が生じた可能性ありと判断された文献では, 頻りに演習での看護技術実施前後に脈拍測定を行っていたことが記述されていた。

研究倫理上の問題の有無に関する判断困難とされた文献は 19 件(24.7%)であった。これらの文献では論文中に研究倫理上の問題について判断するための情報の記述が見あたらず, 判断することが困難であった。

表 3 基礎看護技術演習に関する研究内容

n=87

研究内容コード	カテゴリ(研究内容コード数, %)
無菌操作の実施場面を撮影した VTR 視聴に基づく学生間評価による学生の看護技術習得状況	1. 看護技術演習における視聴覚器具の活用による学生の学習態度および看護技術習得状況(9)
滅菌手袋装着の実施場面を撮影した VTR 視聴後に実施したイメージトレーニング法と反復練習での、滅菌手袋装着時間、目標到達困難項目の比較	
学習初期の学生のボディメカニクスに関する問題点の把握とそれに関する視覚的機器を用いた指導前後での変化	
ボディメカニクスの技術学習におけるベッドメイキング実施時の写真を用いたグループ学習による身体各部の疲労度および意識的なボディメカニクス活用状況の変化	
自己の無菌操作実施場面を撮影した VTR 視聴に基づく自己評価・学生評価による練習前後での学生の看護技術習得状況の比較	
無菌操作の技術に関する教員作成の CAI 教材活用の有無による学生の学習内容の比較	
基礎看護技術各単元における教員自作ビデオを活用した学習による学生の理解度・関心度・看護技術到達度の自己評価	
脈拍・心拍の観察技術演習における生体シミュレーターの活用による学生の脈拍測定能力・循環動態測定能力獲得状況および学習への関心・意欲の変化	
浣腸液の注入される様子を観察できる教員作成モデルの使用による学生の高圧浣腸実施に関する学習内容	
食事援助の技術演習における体験学習による学生の学習内容	2. 看護技術演習における体験学習実施による学生の看護技術習得状況(6)
排泄援助の技術演習における紙おむつ内への排尿体験による学生の紙おむつに対するイメージの変化および学習内容	
病院食を用いた食事介助の技術演習における学生の学習内容	
排泄援助に関する技術演習における紙おむつへの排尿体験学習による学生の看護技術習得状況	
特定看護短期大学卒業後 3~5 年の看護師による体験学習を通して習得した排泄援助技術に関する活用状況	
全身清拭の技術演習における患者役割体験による学生の看護技術習得状況	
ベッドメイキングの技術演習における探求的学習による学生の主体的学習状況および看護技術習得状況	3. 看護技術演習における探求的学習実施による学生の学習態度および看護技術習得状況(6)
清拭の行為の根拠を探索する技術学習による学生の学習内容	
開発された体位変換技術に関する演習における探求的学習による学生の看護技術習得状況、看護技術に関する認識	
開発された体位変換技術に関する探求的学習後の学生の臨地実習での実施状況	
看護技術の根拠を学ぶ実験を取り入れた探求的学習に対する学生の評価、意見	
発見学習方式を一部導入した食事・排泄援助技術演習実施後の学生の学習態度に関する自己評価	
基礎看護技術演習におけるグループ学習による課題の遂行および他学生への指導と技術評価の導入により学生が学習した内容	
看護技術演習における課題の遂行、学生間での技術指導と評価に関するグループ学習実施後の学生評価からみた看護技術習得の学習進度に伴う変化	4. 看護技術演習におけるグループ学習実施による学生の看護技術習得状況(5)
基礎看護技術に関する知識体系を整理する作図をグループで実施したことによる学生の学習内容	
基礎看護技術演習における学生間でのデモンストレーション、グループ討議の実施による学生の学習内容	
基礎看護技術演習全般におけるグループによる課題学習実施に対する学生の意見と看護技術習得状況	
コミュニケーション技術演習における提示事例に対する援助計画立案・実施の授業展開による学生の学習内容	
看護技術演習において提示事例に対する援助計画立案・実施の授業展開による学生の演習前・中での学習活動内容	
看護技術学習において提示事例に対する援助計画立案・実施の授業展開による学生の看護技術習得状況	

表 3 つづき

研究内容コード	カテゴリ(研究内容コード数, %)			
全身清拭の技術演習における学生の反復練習による看護技術習得状況の前年度との比較および学習活動状況	6. 看護技術演習における反復練習実施による学生の学習態度および看護技術習得状況(2)			
筋肉内注射の技術演習における学生の自己評価からみた反復練習による習得困難感の変化				
採血の技術演習に前年度の目標到達困難項目に関する演示と説明を強調した授業展開による教員評価からみた看護技術習得状況の前年度との比較			7. 看護技術演習における授業展開の再編成による学生の看護技術習得状況(2)	
足浴の技術演習における情意領域中心または精神運動領域中心の演示時の説明による学生の目標到達状況の比較				
面接技術演習における模擬患者の導入による学生の学習内容			8. 看護技術演習における模擬患者の活用による学生の看護技術習得状況(2)	
コミュニケーション技術演習における模擬患者導入により学生が習得した内容				
内科的手洗いの技術演習における実験的学習実施1年後の学生自己評価からみた看護技術習得状況			9. 看護技術演習における実験的学習実施による学生の看護技術習得状況(1)	
コミュニケーションの技術演習におけるエンカウンターグループの導入による学生の学習内容				
リネン交換・移送の技術演習における課題学習の提示と課題学習過程が記録できる教員作成ワークブックに対する学生の活用状況			11. 看護技術演習における課題学習実施による学生の学習活動(1)	
筋肉内注射・採血・点滴静脈内注射・吸入の技術学習における学生の自己評価, 観察者学生の評価からみた目標到達困難項目				12. 看護技術項目に関する学生の目標到達困難項目(9)
フィジカルアセスメント技術学習における学生の自己評価からみた目標到達困難項目				
便器を用いた排泄援助技術学習における教員評価からみた目標到達困難項目				
足浴の技術学習における教員評価からみた目標到達困難項目				
下シーツ交換の技術学習における教員評価からみた目標到達困難項目				
採血の技術学習における教員評価からみた目標到達困難項目				
ベッドメイキングの技術学習における学生の自己評価からみた目標到達困難項目, 目標到達容易項目				
筋肉内注射の技術学習における教員評価からみた目標到達困難項目				
ベッドメイキングの技術に関して学生の自己評価表からみた教員が個別指導を要した項目				
フィジカルアセスメント技術における学生の自己評価からみた看護技術習得状況	13. 看護技術項目に関する学生の習得状況(5)			
基礎看護技術各単元の演習における看護技術項目の理解度・到達度・関心度に関する学生の自己評価				
口腔ケア技術演習終了後とその後6か月経過した看護学実習後終了後における学習内容の変化				
臨地実習での衛生的手洗いの実施率からみた習得した技術の定着状況				
2年課程特定看護系短期大学1年次の学生による習得困難感のある看護技術項目	14. 看護技術習得と学生の個人的特性との関連(3)			
足浴の演示時の異なる2種類の説明内容別にみた学生の看護技術習得状況に関する准看護師養成所卒業者と高等学校衛生看護科卒業者との比較				
ベッドメイキングの技術習得状況と生活経験, 看護への興味との関連				
食事の援助技術学習における過去の介助経験の有無と援助時の配慮の関連				
採血の技術学習に伴う学生の不安の程度, 内容と身体的変化との関連および不安の程度に関する看護師役割と患者役割との比較	15. 看護技術学習に伴う学生の不安の知覚とそれに影響する要因(7)	III. 看護技術学習に伴う学生の心理的状況とそれに影響する要因(16, 18.4%)		
採血の技術学習において模擬血管による採血練習実施前後および採血実施前後における学生の不安の程度と内容				
採血の技術実施に伴う学生の不安の程度				
採血・皮下注射の技術実施に伴う学生の不安の程度に関する平常時と実施時の差異				
採血技術の実施における学生の不安得点・採血に要した時間・採血に対する反応からみた不安の程度に関する初回と2回目の比較				
採血技術の実施に伴う学生の不安の程度および看護師役割と患者役割, 予習・講義の学習活動状況での比較				
看護技術の実施に伴う学生の不安の程度に関する採血, 経管栄養法, 皮下注射法および看護師役割と患者役割で比較				

表 3 つづき

研究内容コード	カテゴリ(研究内容コード数, %)
3か月間の基礎看護技術演習前後におけるエゴグラムからみた自我状態の特徴および不安の程度, 自尊感情との関連	16. 看護技術習得に伴う学生の心理的変化とそれに影響する要因(4)
血圧測定技術学習前後における学生の自己効力感の変化および教員からの言語情報, 自尊感情との関連	
血圧測定・導尿の技術学習前後における学生の自己効力感の変化および課題達成自己評価, 教員からの言語情報, 情動状態との関連	
半年間の看護技術学習を通して学生が知覚した学生自身の変化とその具体的内容	
排泄援助に関する技術学習において紙おむつへの排尿体験導入による学生の体験内容	17. 看護技術学習における患者役割体験に伴う学生の心理的体験内容(4)
排泄援助をうける患者役割体験学習における学生の心理的体験内容	
排泄介助・筋肉内注射の看護師役割, 患者役割実施時における学生の感情	
看護技術学習において模擬患者への看護を初めて体験した学生の体験内容	
特定の看護技術学習実施前後における脈拍数の変化からみた看護技術項目実施に伴う学生の緊張度および緊張度に関する生活援助技術と診療補助技術での比較および練習回数との関連	18. 看護技術学習に伴う学生の緊張度とそれに影響する要因(1)
排泄援助に関する看護技術教育における紙おむつ内への排尿体験に対する学生の意見	19. 看護技術教育における体験学習方法に対する教員および学生の認識(8)
1981~1990年の研究論文からみた, 看護基礎教育における心理的体験学習・身体的体験学習に対する学生の意見	
排泄援助をうける患者役割体験学習に対する学生の賛否とその理由	
看護学演習各単元における患者役割体験学習に対する学生の賛否とその理由	
学生が排泄介助・筋肉内注射をうける患者役割体験をすることに関する教員・学生の賛否とその理由	
特定3年課程看護専門学校教員の清拭の技術に関する体験学習の目的と目的達成のための方略	
全身清拭の技術学習における患者役割体験に対する学生の意見	
特定看護短期大学卒業後3~5年の看護師による基礎教育課程での排泄援助技術学習における体験学習の必要性の認識	
看護系短期大学の基礎看護技術領域において実施されている体験学習の種類および教員が体験学習を計画する理由および授業展開における留意事項	
特定3年課程看護専門学校での排泄援助の看護技術学習における患者役割体験の実施内容	
1981~1990年の研究論文からみた, 看護基礎教育における心理的体験学習・身体的体験学習の実施状況	
開発された授業評価スケールを用いた看護技術演習に対する学生の演習過程評価の経時的変化および学生と教員の比較	21. 看護技術教育に対する特定尺度を用いた教員・学生による評価(2)
開発された授業評価スケールを用いた看護技術演習の授業過程に対する教員と学生の評価の比較	
フィジカルアセスメントの技術演習における内容の順序性, 教員の指導方法, 学習環境に関する学生の意見	22. 看護技術の授業展開に対する学生評価(1)
特定看護系短期大学を卒業した看護師による生活援助技術項目に関する基礎看護教育の学習内容活用の程度とその理由および授業への意見	23. 看護基礎教育課程において習得した看護技術の活用状況からみた授業評価(1)
採血技術の演習場面での学生の行動からみた学生の看護技術に関する学習行動	24. 看護技術学習における学生の学習行動の概念化(1)
	IV. 看護技術教育における体験学習方法の実態(11, 12.7%)
	V. 看護技術教育に対する評価の実態(4, 4.5%)
	VI. 学生の看護技術学習活動の実態(1, 1.1%)

### 6. 研究内容の分類(表3)

対象文献から, 基礎看護技術演習に関する研究内容を表す87コードが抽出され, これらは24の下位カテゴリに分類され, 最終的に6カテゴリに分類された。以下, 【 】内はカテゴリを示し, 「 」内は各カテゴリを形成する下位カテゴリを示す。

最終的に分類された6カテゴリおよびコード数と全コードに占める割合は, 【I. 看護技術教育における教授方略

および教具活用による成果】38コード(43.7%), 【II. 看護技術学習における学生の技術習得状況とそれに影響する要因】17コード(19.6%), 【III. 看護技術学習に伴う学生の心理的状況とそれに影響する要因】16コード(18.4%), 【IV. 看護技術教育における体験学習方法の実態】11コード(12.7%), 【V. 看護技術教育に対する評価の実態】4コード(4.5%), 【VI. 学生の看護技術学習活動の実態】1コード(1.1%)であった。

以下、各カテゴリごとに研究内容の分析結果を示す。

#### 1) 【I. 看護技術教育における教授方略および教具活用による成果】

このカテゴリは11種類の下位カテゴリに分類され、それは「1. 看護技術演習における視聴覚器具活用による学生の学習態度および看護技術習得状況」「2. 看護技術演習における体験学習実施による学生の看護技術習得状況」「3. 看護技術演習における探求的学習実施による学生の学習態度および看護技術習得状況」「4. 看護技術演習におけるグループ学習実施による学生の看護技術習得状況」「5. 看護技術演習における事例学習実施による学生の学習活動および看護技術習得状況」「6. 看護技術演習における反復練習実施による学生の学習態度および看護技術習得状況」「7. 看護技術演習における授業展開の再編成による学生の看護技術習得状況」「8. 看護技術演習における模擬患者の活用による学生の看護技術習得状況」「9. 看護技術演習における実験的学習実施による学生の看護技術習得状況」「10. 看護技術演習における心理学的技法実施による学生の看護技術習得状況」「11. 看護技術演習における課題学習実施による学生の学習活動」であった。

例えば、ボディメカニクスや無菌操作の技術教育における視聴覚器具活用のように、自己の身体の動きを学生自身が客観的に評価・把握することで技術習得を促進しようとした演習方法を評価した研究が存在した。また、全身清拭やベッドメイキングにおける探求的学習のように、看護技術の科学的根拠の理解を促進しようとした演習方法を学生の看護技術習得状況から評価した研究等も存在した。これらの論文中には、教授方略および教具活用に関する説明として単元の授業計画や演習の具体的な展開方法が示されている文献が認められた。

#### 2) 【II. 看護技術学習における学生の技術習得状況とそれに影響する要因】

このカテゴリは3種類の下位カテゴリに分類され、それは「12. 看護技術項目に関する学生の目標到達困難項目」「13. 看護技術項目に関する学生の習得状況」「14. 看護技術習得と学生の個人的特性との関連」であった。

例えば、静脈血採血の技術において学生は「血管の走行確認」が困難であったとする研究や、1年次に実施した看護技術演習のうち「全身清拭」の学習目標到達度が最低であったとする研究等が存在した。また、これらの研究で論文に示された学生の看護技術習得に影響する要因としては、看護への興味、生活経験・教育背景等の個人的特性が挙げられていた。

#### 3) 【III. 看護技術学習に伴う学生の心理的状況とそれに影響する要因】

このカテゴリは4種類の下位カテゴリに分類され、それは「15. 看護技術学習に伴う学生の不安の知覚とそれに影

響する要因」「16. 看護技術習得に伴う学生の心理的変化とそれに影響する要因」「17. 看護技術学習における患者役割体験に伴う学生の心理的体験内容」「18. 看護技術学習に伴う学生の緊張度とそれに影響する要因」であった。

例えば、静脈血採血、筋肉内注射等の身体侵襲を伴う看護技術実施による学生の不安の程度およびそれに影響する要因を明らかにした研究が存在した。これらの研究で論文に示された看護技術学習に伴う学生の不安に影響する要因としては、実施する役割、実施回数、看護技術の種類が挙げられ、それぞれ看護師役実施時、初回実施時、静脈血採血時において学生の不安がより強いことが明らかにされていた。また、看護技術習得に伴う学生の自己効力感の変化を明らかにした研究や、体験学習に伴う学生の体験内容を明らかにした研究も存在した。患者役割体験に伴う学生の体験内容としては、排泄援助を受ける体験による羞恥心や心理的苦痛の具体的内容が示されていた。

#### 4) 【IV. 看護技術教育における体験学習方法の実態】

このカテゴリは2種類の下位カテゴリに分類され、それは「19. 看護技術教育における体験学習方法に対する教員および学生の認識」「20. 看護技術教育における体験学習の実施状況」であった。

例えば、学生・教員の体験学習に対する賛否とその理由を明らかにした研究や、学生が患者役割体験として胸部の清拭を受けている、床上での排泄を経験している等の具体的内容を明らかにした研究が存在した。体験学習に対して学生は、体験する援助技術の種類やその範囲により、患者役割体験の必要性を認めながらも羞恥心等の体験からその実施に強い抵抗感を示す一方で、患者の理解を深め、患者の心理に配慮した援助が動機付けられたという肯定的な受けとめ方もしていた。さらに、教員は患者役割体験が学習目標到達のために必要だと肯定的に捉えていた。

#### 5) 【V. 看護技術教育に対する評価の実態】

このカテゴリは3種類の下位カテゴリに分類され、それは「21. 看護技術教育に対する特定尺度を用いた教員・学生による評価」「22. 看護技術の授業展開に対する学生評価」「23. 看護基礎教育課程において習得した看護技術の活用状況からみた授業評価」であった。

例えば、信頼性・妥当性が検証された看護技術演習用の「看護系大学授業過程評価スケール」を用いて、1年間の基礎看護技術演習に対する教員と学生の評価の差異を比較した研究等が存在した。

#### 6) 【VI. 学生の看護技術学習活動の実態】

このカテゴリを形成する下位カテゴリは1種類で、「24. 看護技術学習における学生の学習行動の概念化」であり、静脈血採血の演習場面から学生の学習行動の7概念を抽出した研究であった。

## VI. 考 察

本研究は1991～2002年の12年間における77件の基礎看護技術演習に関する研究について分析した。以降は、対象文献に関して論文発表年、看護技術項目の分類等の研究の概要および研究方法と研究内容の視点から今後の課題について考察する。

### 1. 研究の概要および研究方法からみた基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題

対象文献数の年次推移に関する結果は、基礎看護技術演習に関する研究の、1998年以降における論文数の増加を明らかにした。これは、この領域における研究成果が蓄積されたことを示す。1998年以降の論文数の増加は、近年の看護技術教育に対する関心の高まり、1996年の指定規則改正後の教育実践に関する評価および実態把握の必要性によると推察される。

看護技術項目の分類に関する結果は、各看護技術全般にわたり研究が実施されていること、および1年あるいは半年間を通しての学生の変化を捉えようとした研究も存在することを明らかにした。これは、研究者が多様な基礎看護技術演習に関心のあることを示す。

研究の種類とデザインに関する結果は、量的研究が最も多く評価研究と調査研究を実施していることを示した。これはわが国の看護学教育研究の動向に関する先行研究<sup>13,14)</sup>と同様の傾向であった。しかし、本研究における質的研究の割合が23.3%であるのに対し、これらの先行研究における質的研究の割合は、1991～1992年のわが国の基礎看護技術教育に関する研究を分析した結果が6.1%<sup>15)</sup>、1989～1993年のわが国の看護学教育に関する研究を分析した結果が13.6%<sup>16)</sup>であった。一概に比較することはできないものの、看護学教育研究における質的研究の割合が若干の増加傾向にあるのではないかと考えられ、今後の研究の動向に注目する必要がある。

研究対象者に関する結果は学生が9割以上を占め、研究者が基礎看護技術演習における学習者に関心を向けていることを示す。その一方、教員のみを対象とした研究はみあたらなかった。基礎看護技術演習に関する研究においては、学習者を対象とした研究によって授業を評価し、教員の指導上の課題を検討することが可能である。しかし、授業である演習は、三大要素である教師、学生、教材が絡み合い変化しながら進行する複雑な過程である。しかも、演習は複数の教員が演習指導を担当する場面も少なくないため、さらに複雑な過程となる。したがって、看護技術教育における教育方法を発展させるためには、演習を担当している教員が学生の学習状況をどのように把握し演習を進行

させているのか、複数の教員が同時に1つの演習を指導することによりどのような問題があるのか等を把握し、指導上の課題を検討する必要がある。

データの種類に関する結果は、質問紙が約5割を占め、レポート等の学習者の学習成果をデータとしている文献が約3割を占めることを示した。さらに、研究者のほとんどが教育機関に所属していた。これは、教員と学生の関係に、研究者と研究協力者という新たな関係を構築する必要性があることを示し、今後の研究において学生に対する研究協力の依頼やデータの収集方法に関し十分な検討を要することを示唆する。

研究倫理上の問題に関する結果は、問題の可能性ありと判断された研究が5割以上を占め、このうち対象者の匿名性を保証していないと判断された研究が最も多いことを示した。この結果は先行研究と同様の傾向<sup>21)</sup>であり、研究者の研究興味が自分の関わっている授業や学生の問題にあり、一般化をねらうような段階に至っていないとき「本校学生」と用いたくなるのではないかと<sup>22)</sup>との見方がある。加えて本研究では、対象文献の種類において各教育機関発行の紀要が6割以上を占め、研究者の所属する教育機関の成果であることを明確にする意図があったものと推察される。しかし、看護学教育において学生の権利を尊重する立場にある教員が研究対象者としての学生のプライバシーに配慮していないという状況は、今後改善を要する課題である。

### 2. 研究内容からみた基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題

研究内容に着目して分析した結果は、前述の6種類のカテゴリに分類できることを明らかにした。

6種類のカテゴリのうち【I. 看護技術教育における教授方略および教具活用による成果】【IV. 看護技術教育における体験学習方法の実態】【V. 看護技術教育に対する評価の実態】は基礎看護技術演習における教授活動に焦点をあてた研究である。これらは、教員が多様な教育方法を実施していること、基礎看護技術習得に効果的な教授活動やそのための課題を見いだそうとしていることを示す。

教授活動に焦点をあてた研究のなかでも、【I. 看護技術教育における教授方略および教具活用による成果】は全体の4割以上に該当し、教授方略および教具活用に関する関心の高さを示す。さらに、本カテゴリで示された多様な教授方略や教具活用は、科学的根拠に基づく安全・安楽な技術を学生が習得するために、演習の展開方法が工夫されその実践が評価されていることを示唆する。本カテゴリの研究は限られた授業を取り扱っているため一般化することが困難である。しかし、複数の研究がその有効性を明らかにしている教育方法は、基礎看護技術演習を担当する教員

が、論文中に示された授業計画や演習の具体的な展開を参考にして吟味し、自己の教授活動における活用可能性を検討することが可能である。今後は基礎看護技術教育に携わる教員が、教授活動において演習の教育方法に関する研究成果を活用し、さらに効果的な演習方法へと発展させていくことが課題である。

また、【IV. 看護技術教育における体験学習方法の実態】は、基礎看護技術演習の特徴でもある学生の看護師・患者役割体験に焦点をあてた研究である。これらの研究内容は体験学習の実施範囲とそれに対する学生・教員の認識を示し、体験学習の実施範囲によって学生の否定・肯定的な両面の捉え方があることを明らかにした。これは、本カテゴリーの研究内容によって今後教員が学生への心理的侵襲を予測し、それに配慮した学生の体験範囲を検討する資料となることを示唆する。

基礎看護技術演習における体験学習は、看護師役と患者役との交わりを通して看護者の役割意識の育成、患者の気持ちの理解が得られる<sup>19)</sup>学習の機会である。また、看護技術習得においてより実践に近い学習が可能であると同時に、患者の立場に立った看護実践の動機付けともなる。しかし、青年期にある学生の自尊心への配慮の視点から、床上排泄援助を受ける体験のような、特定の患者役割体験については実施の危惧も表明<sup>20)</sup>されている。したがって、基礎看護技術演習における授業案は、学習目標到達に向け体験によって得られる学習の成果と体験実施に伴う学生の心身の侵襲を勘案して作成することが重要となる。そこで、看護技術教育において特に学生の心理的侵襲に配慮するには、心理的侵襲に対し学生がどのように対処しているのか、心理的侵襲からの回復に必要なサポートを得ているかを知る必要がある。しかし、対象文献にはこれに関する研究内容は見あたらなかった。今後の課題として、体験学習に伴う心理的侵襲に対する学生の対処に関する研究の必要が示唆された。

6種類のカテゴリーのうち、【II. 看護技術学習における学生の技術習得状況とそれに影響する要因】【III. 看護技術学習に伴う学生の心理的状況とそれに影響する要因】【VI. 学生の看護技術学習活動の実態】は基礎看護技術演習の学習者に焦点をあてた研究であり、教員が教授活動において学習者の理解を重視し、学生の技術習得上の困難克服に対するサポートおよび学生の心理状況に配慮した教授活動を課題としていることを示す。

学習者に焦点をあてた研究の中でも、【III. 看護技術学習に伴う学生の心理的状況とそれに影響する要因】では、患者の身体侵襲を伴う看護技術の学習場面における学生の不安とその影響要因、患者役割体験による学生の心理的侵襲の内容が示されていた。これらは、看護技術学習と学生の心理的侵襲との関連が追究されていることを示す。一

方、基礎看護技術演習は看護の共通・基本技術の習得を目的としている。したがって看護技術教育においては看護師役実施時の不安を含めた心理的侵襲と学習目標到達との関連が問題となる。しかし、対象文献では学生の心理的侵襲が看護技術の習得にどのような影響をおよぼすのかに関する研究が見あたらなかった。そこで、今後の課題として体験学習による学生の心理的侵襲と学習目標到達との関連に関する研究の必要が示唆された。

また、【VI. 学生の看護技術学習活動の実態】の「看護技術学習における学生の学習行動の概念化」の研究は基礎看護学教育に関する先行研究<sup>21,22)</sup>で示された研究内容には含まれない新たな研究であり、わが国の基礎看護技術演習に関する研究が進展していることを示す。「看護技術学習における学生の学習行動の概念化」の存在は、その成果の活用によって教員による学習者の理解を深めるとともに、学生の学習行動を促進する要因を解明する研究へと発展する可能性を含み、研究遂行上の貴重な資料になると考えられる。今後は、学生の学習行動に関する研究を進展させることが課題である。

## VII. 結 論

1. 基礎看護技術演習に関する研究内容を示す6カテゴリー、【I. 看護技術教育における教授方略および教具活用による成果】【II. 看護技術学習における学生の技術習得状況とそれに影響する要因】【III. 看護技術学習に伴う学生の心理的状況とそれに影響する要因】【IV. 看護技術教育における体験学習方法の実態】【V. 看護技術教育に対する評価の実態】【VI. 学生の看護技術学習活動の実態】が明らかになった。

2. 基礎看護技術演習に関する研究においては、体験学習による心理的侵襲に対する学生の対処に関する研究および学生の心理的侵襲と学習目標到達との関連に関する研究の必要性が示唆された。

3. 「看護技術学習における学生の学習行動の概念化」という新たな研究の存在が明らかとなり、わが国の基礎看護技術演習に関する研究の進展が示された。

## ■文 献

- 1) 井部俊子：看護婦の卒後臨床研修はなぜ必要か、看護展望, 26(5), 17-22, 2001.
- 2) 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会：看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書, 2003.
- 3) 厚生省健康政策局看護課編：看護教育カリキュム—21世紀に期待される看護職者のために, 101, 第一法規, 1989.
- 4) 新村出編：広辞苑(第4版), 300, 岩波書店, 1991.
- 5) 野本百合子：基礎看護技術と看護の専門職性—演習におけ

- る授業展開, Quality Nursing, 4(3), 25-30, 1998.
- 6) 前掲書 3), 103.
  - 7) 舟島なをみ・安齋由貴子: 米国の博士論文にみる看護学教育研究の現状—研究デザイン, 研究内容に焦点をあてて, 埼玉医科大学短期大学紀要, 4, 41-49, 1993.
  - 8) 野本百合子・鈴木純恵・小川妙子: 1989~1993年におけるわが国の基礎看護学教育に関する研究の動向と特徴, 看護教育学研究, 4(1), 1-17, 1995.
  - 9) 看護学教育の在り方に関する検討会: 看護学教育の在り方に関する検討会報告, 2002.
  - 10) 氏家幸子・阿曾洋子: 基礎看護技術 (第5版), 医学書院, 2000.
  - 11) Polit, D. F. & Hungler, B. P., (1987), 近藤潤子監訳, (1994): 看護研究原理と方法, 医学書院.
  - 12) 前掲書 11)
  - 13) 鈴木純恵 他: わが国の学会抄録にみる基礎看護技術教育の研究現状の分析—研究デザイン, 研究内容に焦点をあてて, 自治医科大学看護短期大学紀要, 3, 15-26, 1994.
  - 14) 前掲 8)
  - 15) 前掲 13)
  - 16) 前掲 8)
  - 17) 塚本友栄・舟島なをみ: 看護学教育研究における倫理的問題, 看護教育, 35(8), 550-556, 1994.
  - 18) 前掲 17)
  - 19) 持永静代: 実践力を高めるために看護技術と指導の視点, 看護教育, 42(11), 922-924, 2001.
  - 20) 川瀬シズ・鼻野木晴美 他: 問い続ける体験学習排泄授業展開の試み, 看護教育, 34(2), 108-113, 1993.
  - 21) 前掲 8)
  - 22) 前掲 13)

**【要旨】** 目的: 看護基礎教育課程における基礎看護技術演習に関する研究の動向を明らかにし, 今後の研究遂行上の示唆を得る。 研究方法: 対象文献は1991年から2002年に発表された基礎看護技術演習に関する原著論文を医学中央雑誌を用いて検索し, 内容の精読を通して選定した。選定した対象文献をデータ化し, 発表年, 看護技術項目, 研究の種類・デザイン, 研究対象者, 研究倫理上の問題等について記述統計を算出した。また, 研究内容は研究論文を精読し, 研究内容を要約してコード化し, コードの意味内容の類似性に基づいて分類しカテゴリ化した。 結果: 対象文献は77件であり, 研究の種類およびデザインは量的研究および評価研究が約5割であった。研究内容は【I. 看護技術教育における教授方略および教具活用による成果】【II. 看護技術学習における学生の技術習得状況とそれに影響する要因】【III. 看護技術学習に伴う学生の心理的状況とそれに影響する要因】【IV. 看護技術教育における体験学習方法の実態】【V. 看護技術教育に対する評価の実態】【VI. 学生の看護技術学習活動の実態】の6カテゴリに分類できた。 考察: 【III. 看護技術学習に伴う学生の心理的状況とそれに影響する要因】【IV. 看護技術教育における体験学習方法の実態】では, 患者役割体験の実態と体験による学生の心理的侵襲が示された。しかし, 体験学習による心理的侵襲に対する学生の対処および心理的侵襲と学習目標到達の関連は追究されておらず, これらの研究の必要性が示唆された。また, 【VI. 学生の看護技術学習活動の実態】は, 基礎看護技術演習に関する研究の進展を示す研究内容であった。